

# チームけせんの和 だより

2018  
vol.20  
9月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118

## チームけせんの和に寄せて



社会福祉法人大洋会多機能型支援施設 アップル 工藤 優

社会福祉法人大洋会多機能型支援施設アップルは、平成26年9月に開所し、5年目を迎えようとしています。

当施設は生活介護、放課後等デイサービス等の事業を行い、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいの方々が、日中活動、入浴、医療的ケア、リハビリテーション等を行う場、放課後、長期休暇中の居場所としてあります。

日中の時間、利用者さんの皆さんは、創作活動をされたり、読書をされたり、談笑をしたり、他の方のお手伝いをしてみたり等と、それぞれ思い思いに過ごされています。利用者さんが主体的に活動出来るように、職員はきっかけ作り、環境作りという点からお手伝いをさせて頂いています。

日中活動では、工芸やレク活動に力を入れており、季節感を感じられる、誰でも参加できるように工夫をしています。そんな中で、出来る事が増えた方、ひと工夫があれば出来た等、楽しい、達成感のような笑顔が見られること、またその事をご家族さんに伝えた時の笑顔が、職員にとっても一番の励みになっています。

放課後等デイサービスでは、工芸やレクにも力を入れている他に、日頃できない様な遊びを体験できるように心がけています。陸前高田市では、まだ子供たちが遊びまわられるような場所等、色々な体験ができる様な場所は、少ないように感じます。そのため公園や遊具がある場所、走り回れる場所、動物に触れあえる場所等に出かけることも多いです。その時には子ども達だけでなく、職員も全力で遊びます。また、非定期ではありますが、音楽療法士の先生をお招きしてみんなで楽しく、音楽に合わせて遊ぶこともあります。

生活介護、放課後等デイサービス共通していることとして、年に1回程度の頻度で遠足を企画しています。これまでは、ショッピングセンターでの買い物、工場見学、感覚で遊べる施設や博物館などに行きました。皆さんそれぞれの場所で色々な一面を見せてくれますし、たくさんの笑顔を見る事ができるので、職員も楽しみの一つになっています。

今後も、色々な活動を通して、利用者さんの笑顔がたくさん引き出していけるような活動を続けていきたいと思っております。またその事が地域で暮らす事の支えの一つに繋がっていただけると思っております。今後とも皆様よろしくお願いたします。



## 『チームけせんの和に寄せて』

医療法人 a.d.o. きかわだ歯科クリニック 院長 黄川田康人

高田町から小友町のオートキャンプ場モビリア下に移転してから、はやくも8年目を迎えました。

緑豊かというより、森の中の歯科医院という表現の方が正しいようです。

クモや蜂。トカゲにモグラ。スズメが軒下に巣をつくり、そのヒナを狙うヘビ。キツネに狸。朝カーテンを開けるとカモシカ。

スタッフからも、『ここは野生すぎて、少々のことでは驚かなくなりましたが・・・。』なんて言われる始末。

震災直後も多くの先輩方から、キャンプならともかく診療地として大丈夫なのかと心配して頂いたことを思い出します。

移転開業後にも、思いもよらない出来事がありました。東日本大震災で遮断され迂回を余儀無くされていた、当病院前の県道38号線（通称アップルロード）の復旧かさ上げ工事が、当初の計画より伸び3年半もの長期間に渡った事です。さすがにコレには困り果てました。やっと完成したのが本年3月中旬、高田の市街地も少しは近くなりました。今後、アップルロードから延長される道路が、1日でも早く高田病院や市役所まで繋がることを願うばかりです。

道路が開通したからではありませんが、この7月から開始しているプロジェクト、劇団ばば☆のDVD第二弾の製作にも参加させてもらっています。幼少期から近所のおばあちゃんに囲まれて、お茶っこ飲みをし談笑していた経験が、やっと生かせるチャンスが頂きました。みなさんからの指摘によると、なかなかの訛りのようです。ネイティブスピーカーなんて言われても、あんまり嬉しくはないのですが（笑）。撮影開始は10月中旬ごろからの予定で、年内の完成を目指しておりますので、どうぞご期待ください。

9月3日には、岩手日報 「いー歯トープ 8020 続 『歯と口のハテナ』」 の欄において『震災が起きた時に気をつけたい歯・口のケア』も掲載させて頂きました。こちらもご覧頂いておりましたら幸いです。



例外にもれず歯科医師会も実働部隊の人数が少なく、県・地区の会務で飛び回っておりますが、小友でもこの場所だからこそできる事、発信できる事、地域のみなさんと協力させていただけること、教えていただけることが沢山あると思っています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

## チームけせんの和に寄せて

医療法人 勝久会 グループホーム「箱根山」 所長 水野旭



いつもお世話になっております。医療法人 勝久会 グループホーム「箱根山」は小友町に平成27年4月に開所し、平成29年8月に1ユニット（定員9名）から2ユニット（定員18名）となりました。

チームけせんの和だよりに認知症対応型グループホームの事が掲載されるのが、初めてなので少し紹介したいと思います。

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）とは認知症の人が少人数（5人から9人）を1ユニットとして共同で生活し、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、利用者と職員と一緒に食事の支度や掃除・洗濯などの日常生活を行い、なじみの関係を作る事により、生活上のつまずきや認知症の症状を軽減し、落ち着いた生活が送れるように支援する施設です。

ですからグループホーム「箱根山」の日常は、例えば朝食を食べ終わった後など、2人の利用者が職員と一緒に皿洗いをし、1人がモップ掛け、2人がテーブルや椅子拭き、2人が洗濯物をたたみ、外へ草取りに出掛ける人もいて朝から働き者の入居者が多く「あと何かやる仕事ないの?」「どれ、手伝ってけっから」と言われる事もしばしばです。



また、グループホームの周辺が小友保育所の散歩コースとなっており、園児がお手紙を持ってグループホームを訪れ触れ合うこともあります。帰りに「おじいちゃん、おばあちゃんバイバイ」と手を振られると入居者だけでなく職員も癒され笑顔になります。

グループホーム「箱根山」では、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」入居者一人一人のその人らしさを大切にしたい、我が家で生活するような施設を目指しています。そ



のためにはご家族や地域の人達だけではなく、「チームけせんの和」の皆様のご指導とご支援が不可欠ですので、今後ともよろしくお申し上げます。高台にあるグループホーム「箱根山」のリビングから見える「千町田（ちまちだ）」の風景は最高です。お近くへ来た際にはお気軽にお立ち寄りください。

## 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和） 第2回研修会

平成30年6月21日（木）

陸前高田市コミュニティホール大会議室（66名参加）

テーマ「元気に長生き健康寿命を目指して～いつまでも自分の脚で歩けるように～」

講師：陸前高田市国民健康保険広田診療所 所長 岩井直路氏

岩井先生は、要介護の原因となる疾病のうち「骨折・転倒」「関節疾患」の運動器疾患が全体の25%程度を占めており、骨、関節、筋肉などの運動器機能が衰え介護が必要な状態になる「ロコモ」は、日常生活の自立度、運動器の健康度が比較的高い人の中にもロコモの予備軍が存在する」と言及され、気軽に行える開眼「片足立ち訓練」等の内容や有効性を説明されました。



また、ロコモと共に「健康寿命の短縮」「要介護状態」の要因に当たるメタボリックシンドロームと認知症との関連性などにも触れ、「病院などで評価、指導を受けさまざまな対策を総合的に行うのが望ましい」とアドバイスされました。

岩井先生の地域に向けられている熱意やあたたかなお人柄にふれることができました。これからも陸前高田市民のために宜しくお願い致します。



### 編集後記

猛暑？酷暑？といわれた災害レベルの暑さに見舞われた夏もやっと終わり、心地良い風を感じられる今日この頃です。しかし、その夏の暑さに負けじと食べた後、なんと食欲の秋がきてしまいました。

さて、今回のチームけせんの和だよりには、ここ数年での開所や移転事業所からの原稿を掲載させていただきました。またチームけせんの和では、引き続き掲載内容を随時募集しておりますので、お気軽にご連絡いただければと思います。

引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。